



## 今月のごあんない

### 森へ行こう

#### 「歌オブナ林・冬じたく」

散策シーズンの終わりを迎え、散策路沿いのポイント札や道しるべをはずしながら、晩秋のブナ林を観察します。この時期ならではのカラ類の混群やフユシャクの乱舞に出会えるかも。

【日 程】11月19日(土)

【時 間】9:30~14:30

【集 合】歌オブナ林駐車公園(9:30)

【参加費】300円 ◎「ブナさぼ」のメンバーは無料

【持ち物】野外で活動できる服装、軍手、雨具、  
(午後も参加する方は) 昼食、敷物

【申込み】不要

【雨天の場合】中止

※午前中だけの参加もOKです

シマエナガにも  
会えるかな?



※裏面に「シマエナガ」を詳しく紹介しています

### 新型コロナウイルス感染症対策

- ◎参加の際は、検温への協力とマスクの着用をお願いします
- ◎感染状況によっては中止や内容等を変更する場合があります

### わくわく土曜日ランド

#### 「秋の実り\*クッキング」

この秋、実った「木の実」をつかって、簡単なお菓子作りに挑戦します。集める木の実は何になるでしょう?・・・ブナ?どんぐり?ヤマブドウ?お楽しみに!

【日 程】11月26日(土)

【時 間】10:00~15:00

【集 合】ブナセンター(9:55)

または町民センター(9:45)

【定 員】15名(町内小学生対象)

【参加費】300円

【持ち物】野外で活動できる服装、リュック、昼食、  
水筒、エプロン、三角巾

【申込み】前日17:00までにブナセンターへ

◎詳しくは学校配布のチラシにて

## 町民総合文化祭(11月1日~3日) ~ブナセンターの活動を紹介します~

毎年文化祭では、ブナセンター陶工房で活動している陶芸クラブの皆さんの作品を展示しているほか、ブナセンターの活動報告や来年3月開催予定の「企画展 黒松内の樹木③~黒松内の木と暮らし~」に関連する民具なども展示予定です。ぜひご覧ください。

昨年の展示の様子→



## 陶工房からのお知らせ

昨年に引き続き、年内に作品が焼きあがるよう、素焼き、本焼きをする日程を決めました。

11月24日までに作品を作ると、12月21日には完成した作品を持ち帰ることができます。

新年の干支にちなんだ小物やアロマポットなど、冬の器を作ってみませんか?

お気軽にお問い合わせください。



### <年内に完成したい人向けの日程>

~11月24日(木) 作品づくり

12月 7日(水)~11日(日) 色つけ(釉薬がけ)

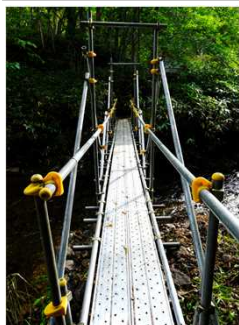
12月21日(水)~25日(日) 完成品受け取り

※ブナセンター職員の指導が必要な方は木曜日の13:30~15:30  
または18:30~20:30にお越しください(要予約)

10月7日(金)

### 歌オ川の新しい橋・設置完了

8月16日の豪雨で、歌オブナ林入口の歌オ川に架かる橋が流されました(歌オ川の橋が流されたのは2017年9月の台風18号の時以来2回目)が、この日ようやく新しい橋が架かりました。以前同様、単管パイプの橋なので、渡る際は2、3人ずつで、とお願いしています。



## ブナセンター日記

10月8日(土)

### ブナの実調査・途中経過



今年、黒松内ではブナの実がたくさんなり「豊作年かも?」と期待されています。10月上旬に歌オブナ林で行った1回目の調査結果では、10か所のシートラップに落ちてきたブナの実の数は過去の豊作年(直近2017年、2002年)と比べるとやや少ないものの、並作年よりはかなり多く、健全果率(翌年芽が出る種子の割合)は豊作年なみ。10月下旬まで行われる2回目、3回目の調査結果が楽しみです。

くろまつないQ  
クエスチョン

ブナセンターに寄せられた黒松内の自然に関する質問にお答えする、「くろまつないQ (クエスチョン)」コーナー。  
今回の「Q」は・・・

## Q. 黒松内にシマエナガはいるの？ です！

エゾリス、エゾモモンガとともに「北海道3大かわいい動物」に選ばれたり、某テレビ局の朝の情報番組のマスコットキャラクターになったりと、最近急に全国区で有名になった鳥「シマエナガ」。

町民の方からも「どこにいるの?」「見つけるコツはあるの?」など、シマエナガに関する質問が増えているので、ここでまとめてお答えします！

## A. います。

### どこで見られるの？

シマエナガは、北海道各地の平地から山地の林にふつうに見られる鳥です。黒松内でもブナ林はもちろん、住宅地周辺の林(たとえば森林公園や東山、大鳥神社周辺の林など)にも生息します。

### 見つけるポイントは？

見つけるポイントは意外とシンプル。「長い尾」と「鳴き声」、そして「時期は秋から冬がチャンス！」です。

#### ①姿のシルエットですぐわかる

シマエナガの特徴は、白い小さな丸っこい体と黒くて長い尾です。「エナガ」の名は、この長い尾を「ひしゃくの柄」に見立てています。黒松内の森林で見られる小鳥で、こんなに尾が長いのはシマエナガだけ。一度見たらすぐ覚えられます。

#### ②「じゅり・じゅり♪」という鳴き声を覚えよう

シマエナガがいる！とわかるのは、まず鳴き声から。「ジュリ・ジュリ」とか「ジュルル」といった濁った鳴き声が聞こえたら、きっと近くにいます。鳴き声はインターネットで検索できるほか、ブナセンターにある『鳴き声図鑑(BIRD VOICE)』でも聞くことができます。

#### ③秋から冬が観察のチャンス！

アイヌ語でシマエナガのことを「ウパシチリ」upas-cir(雪・鳥)といいます。「雪のように白い」からではなく、「初雪が降る頃に人里に来る鳥だから」という意味だそうです。確かに、シマエナガは1年中同じ場所にいる留鳥(りゅうちょう)ですが、子育て期間の夏季は森の奥にいるのか、あまり姿を見ません。よく見るようになるのは秋から冬にかけて。5~10羽の群れで、枝から枝へ飛び回り、餌探しをしています。カラ類の「混群」(\*)に混じることもしばしばです。

シマエナガに会いたい人へ。この鳥がいそうな林を頻繁に、のんびりとお散歩することをおすすめします。運よく出会えれば、わりと人を恐れない鳥なので間近で観察できることも。ブナセンターの周りの林でも、カラマツなどの枝にぶら下がって、枝先にいる小さな昆虫や冬芽をつつく様子や、3月頃にはカエデの樹液をなめに来る様子が観察できますよ。

参考文献: fauna No63 「特集 恋するシマエナガ」



#### 「エナガ?シマエナガ?」

シマエナガはエナガの亜種で、日本では北海道にのみ生息しています。本州には亜種エナガ(頭に黒い線がある)がいますが、どちらも種名としては「エナガ」です。

ちなみに、「シマ」は北海道のことです(北海道=蝦夷が島)。シマフクロウ、シマアオジなど、シマがつく北海道特有の鳥は他にもいます



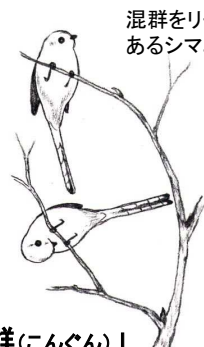
本州にいる亜種  
エナガ



北海道にいる亜種  
シマエナガ



「ひしゃくの柄」のような  
長い尾が名前の由来。



混群をリードすることもあるシマエナガ。

枝先にぶら下がったり、さかさまになつたり、せわしなく動きます。

#### ※「混群(こんぐん)」

ハシトガラなどのカラ類は冬期間、複数の種類が群れて行動します。食べ物が不足する季節に、たくさんの眼で餌を探し、たくさんの眼で敵を警戒して身を守る、独特の習性です。混群にはコゲラ、キバシリ、シマエナガなども混じります。

### 【11月の休館日】

1日 / 7・8日 / 14・15日 / 21・22日 /  
28・29日 ※16~18日は資料整理日のため休館  
ブナセンターは通常毎週月曜日と火曜日が休館日です

- 「ブナセンターだより」はブナセンターHPからPDFファイルをダウンロードできます。
- 「ブナセンターだより」郵送ご希望のかたは、郵便番号、住所、氏名、電話番号を明記のうえ、希望回数分の84円切手を同封してブナセンターまでお送りください。

発行所: 黒松内町ブナセンター

〒048-0101 寿都郡黒松内町字黒松内 512-1 TEL (0136)72-4411 FAX (0136)72-4440

メール bunacent@host.or.jp HP <http://bunacent.host.jp/> fb <https://facebook.com/kuromatsunai.bunacent>